

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100097&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中に位置し、近辺には保育園や児童館や小学校、コミュニティーセンター等があり、社会資源に恵まれている。地域の自治会にも加入し、入居者や職員は地域の行事や活動に参加し、地域の一員として自然にとけ込んで生活している。健康維持のため、日課としてテレビ体操を行い、天気の良い日は近所の公園等の散歩、散歩が出来ないときは、室内の歩行訓練をし、健康の維持と生活のメリハリと気分転換を図っている。また、介護面でも、自分らしく生活できるような支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には、保育園や児童館や小学校、コミュニティーセンター等があり、社会資源に恵まれている。特に保育園との交流や地域の自治会に加入し、地域の行事や活動にも積極的に参加している。また、防災対策においても地域の協力が得られており、非常災害時の地区住民への連絡網も作成されている。重度化や終末期における対応についても独自の指針を作成し、利用者はもとより、家族と話し合いの下、掛かりつけ医や訪問看護と連携を取り、積極的に取り組んでいる。ホームでの生活は、利用者や職員の和やかな雰囲気の中で、利用者が生き生きと生活できるよう支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中でその人らしく地域とかわりも持ちながらゆっくりとして生活を送れるように」と理念を掲げ、職員全員でそのことを共有し実践している。	「家庭的な環境の中でその人らしく地域の中でゆっくりとした生活を送れるように」の理念を四つの項目を具体化し、地域との関係作りを重視した理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の公園に散歩に行っではゴミ拾い活動を行い、一斉清掃に参加している。自治会のふれあい会食や児童館から敬老会や餅つき大会等の誘いを受け、参加している。	自治会に加入し、ゴミ拾いや草取りなどの奉仕活動など積極的に参加している。また、地域や保育所の行事にも参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者が毎月1回、当ホームのホールを開放して利用者と一緒に歌い、相互が楽しみを持って支えている。近所の家族から、親が認知症で今後の生活をどうしたらいいかと相談を受ける。将来のために見学したいと見に来られる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告を会員全員にコピーして手渡し、評価に対してのホームの今後の更なる介護の質の向上に取り組む意思を報告した。項目ごとに質疑応答の時間も設け理解を得た。	2か月に1回の頻度で運営推進会議を開催し、ホームの活動報告、利用者の日々の様子等について話し合いが行われている。会議での意見、アドバイスをサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	理解しがたいことや困難な事例については、市の担当者に電話したり、直接出向いで確認したり、相談にのってもらっている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで、気軽に意見交換できている。また、市の担当者と電話や直接出向くことで、悩みや相談ができる関係作りができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、折に触れ、その弊害等を職員とともに共有し、自由な生活を送れるように配慮している。たとえば、玄関はいつも開放しており、出かける気配があるときは職員が付き添っている。	日中は施錠することなく、外出傾向のある方は見守りをしながら、さりげない対応を行っている。また、身体拘束について、ホームでその弊害について十分理解し、職員の共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待についても話し合う機会を設け、理解を促している。以前、利用者同士の虐待がみられたため、特に気配を察知し、未然に防げるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の必要な利用者がいないため、活用の必要性がないが、必要な方が入居されたり、必要になってきた場合を想定して、今以上に学んでいきたい。家族等にも説明できるくらい理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たっての不安や疑問を取り除いて、安心して入居できるように、丁寧にわかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最初に家族と十分な話をし、信頼関係を築く努力をし、意見や要望を自由に話してもらい、運営や介護計画に反映できるようにしている。	家族の来訪時に声かけし、気軽に意見や要望を聞き取る配慮をしている。出された意見や要望は、ミーティングなどで話し合い、反映できるよう取組んでいる。また、家族会の設置も検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接介護に当たっているのは職員なので、適切に必要な意見や提案は随時対応したり、職員会議等で検討したりして、運営に反映している。	懸案事項がある場合は、そのつど職員会を開催し、職員の意見、要望を聞くようにしている。また、管理者は、日常的なかかわりの中で、意見や要望が出やすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々がいきいきとやりがいを持って働けるように、就業規則に沿って労働条件を整え、実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量とケアの実績を把握し、職員の質が向上させられるよう必要と思われる研修を受けてもらい、自ら技術や知識を身につけたい職員には奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者と連絡を取り合い、お互いに相談したり、介護のサービスの質が向上していくように話し合いをして交流している。相互に訪問をして、よりよい箇所は取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活できるように、サービスの段階で信頼関係が保てるように、要望や話を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話がしやすい環境をつくり、何でも聞いたり、言えるように、親しみのある関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、必要な支援は何かを見極められるように努力し、適切なサービスがあれば勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に相応しい、可能な役割を持たせ、生活の中に必要な存在であるという自覚を持ち、共同生活を送る仲間という意識を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆がよりよく築かれるように、家族が面会に来た時は双方が楽しく話やすい環境を提供し、また来てもらえるように口添えするように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月訪問してくれる地域の人とふれあい会食や地域の行事等でも会えて、喜んでもらえるように支援したり、仕事仲間だった人が電話してきたり、一緒に外出することを支援し、共に喜んで楽しみをもてるようにしている。	外出や買物、散歩中に、なじみの方との会話やあいさつを通じて、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することなく、なるべくみんなまでホールで過ごす環境作りをしている。本人達で会話したり、衣服や掛物を掛け合っ、いたわり合う様子を見ると、喜ばしく感じられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の行事等や町中で再開したときは、あいさつや近況を伺い、気軽に話ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きなことややりたいことを把握し、無理なくできるように支援している。	本人からの要望は少ないが、日々の暮らしの中での言葉や表情から、それとなく意向や要望を引き出したり、家族からの情報を基に支援できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で、本人の生き方、暮らし方、なじみのものなど、家族に聞き把握し、今後の暮らしに役立てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者から夜勤帯の状況を申し送り、朝のバイタルサインチェック等で心身の状態を把握し、1日の様子を伺ったり、もうし送りノートにまず出勤したら目を通して仕事に入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は、全職員から本人の日常生活の様子や変化、気づいたことをよく聞き出し、よりよく暮らすための課題を見極め、適切なケアにつながるよう取り組んでいる。	介護計画は、日ごろのかかわりの中で、利用者の思いや意見を反映できるよう、定期的なモニタリングを行いながら作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤と日勤の記録は、色分けして見る人が分かりやすいようにして、情報の共有を図りながらよりよい介護計画につながるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりが毎日同じではなく、体調や気分に変化があり、その日その時でその人に合わせた柔軟な対応で、一人ひとりのニーズにできるだけ添えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ地域に溶け込んで、ホームに訪問してもらったり、招待を受けたり、外出すると声をかけてもらったりして、心豊かに楽しみながら暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携するかかりつけ医以外でも、本人が昔から信頼している病院があれば、その病院とも提携をして、本人が安心して医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望で、納得のいく掛かりつけ医となっている。受診も必要に応じて、ホームの看護師が付添い、ホームでの普段の様子を伝えるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、健康面の変化や気づいたことは全て早急に看護師に連絡をとり、適切な受診が受けられ、重度化せず未然に防ぐ対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には的確な日常の情報を提供し、安心して、また、早期に退院できるように支援している。病院にはたびたび面会をし、病院関係者から経過等の話を聞いて、信頼関係を築くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方から最後まで見てくれるからここにお願したいと言われているので、最初の段階やサービス担当者会議等でも方針を共有している。	看取りについての独自の指針の下、職員は方針を共有し、掛かりつけ医・訪問看護と十分に連携を図り、家族に対しても説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	南消防署で行われた応急手当や初期対応の訓練に二人の職員が参加し、全員が慌てず正確な行動がとれるように、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力を得ながら避難訓練を実地したり、自治会とも非常災害時の通報協力体制を整えている。	定期的に防災訓練を行っており、マニュアルも完備されている。自治会との協力も得られており、非常災害時の地区住民への連絡網も作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても、誇りやプライドを最後まで維持していることを職員が自覚していて、それを汚すことのないような言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに対して、言葉掛けや対応には配慮しており、記録等の個人情報についてもきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に言える環境を作り、職員は本人の話に耳を傾けて、聞く姿勢を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢者は変化を嫌われるので、特別な日を除いては毎日変化なく、また、本人の希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりがそれぞれ個性を持っておられるため、その本人らしさの援助ができるように支援している。毎日本人の好みの洋服を選んで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであり、季節の物、高齢者が好む献立を提供している。下ごしらえをみんなで رفتたり、お盆ふきやテーブルふきなど、役割が決まっている	職員が利用者に好みのものを聞いたり、利用者はそれぞれができることを手伝い、家庭的な雰囲気の中で、同じテーブルを囲み食事を取っている。職員は、さりげないサポートをしながら、楽しむ食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜は毎食、肉・魚も毎日摂取して栄養のバランスを考慮し、本人の食べる量も把握して配善している。嚥下の低下のある入居者には、ミキサー食や刻みで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている入居者は、毎食後口腔ケアを行っている。夕食後は職員が付添い、きれいに口腔ケアを行い、コップ、歯ブラシ、義歯の洗浄を行い消毒をし、菌による病気にならないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力排泄自立できるよう支援を行う。便汚染があっても、本人が傷つかないようにそっと後始末し、自尊心を保てるようにしている。	排せつチェック表を参考に、一人ひとりの状態に合わせ、さりげなく時間を見て、声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘がちになりやすいため、野菜を多く取り入れた献立の工夫、日課としてテレビ体操や公園までの散歩、運動療法を増やす支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	高齢者は変化を好まれないため、入浴日、時間帯を変えない努力をしている。また、1対1の入浴介助のため、職員とのコミュニケーションとの場になり、楽しみにしている入居者もいる。	週3回入浴日があり、体調等、状況に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の時間は一人ひとりまちまちだが、本人の意思に任されている。季節の気温に応じ、エアコンにて室温調整を行い、安心して眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、職員がすぐ確認できるように表示しており、新しい薬や減らされた薬等の説明は、看護師が医師に報告されたことを的確に伝えるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好き、韓国ドラマが好きなど、好みに合わせてレンタルビデオや買ってきたビデオの放映を行う。書写や塗り絵、折り紙など、好きな作業を本人に選んで行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、気分転換に外出を本人の希望で出かけている。地域の集会場の食事会にも招待を受け、出かけている。	日課の近隣までの散歩や地域の食事会への参加、保育園の発表会、買い物などで戸外へ出かけられるよう、積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する能力のある入居者は、自分で買い物したり、職員に買い物を頼むことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の申し出で、いつでも電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まる食堂のテーブルの上には、季節の花を飾り、季節感を感じ取れるようにし、ホールや廊下にも花や景色の絵を飾り、会話が弾み、癒される空間をつくっている。	共用空間は適度の明るさで、テレビの音やトイレのにおいなど、不快にならないように配慮されている。また、季節感を出すための飾り付けなども工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬はこたつを囲んでみんなが集まれるような環境を作り、隣同士で会話をしている様子見て、微笑ましく思うことがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活のなじみの物を部屋に置き、今までと同じ部屋を作ることで、安心した生活が送れるように工夫している。	居室には、孫の写真や仏壇など、なじみの物が持ち込まれ、それぞれに本人らしく過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各室には表札を取り付け、自分の部屋が分かりやすくしたり、建物全体が単純な造りで、間違いを起こさないように設計した。また、バリアフリーで、つまづきや危険な個所がないように配慮した。		